

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和6年 6月 26日	
富山県知事 新田 八朗 殿	
提出者 住 所 富山県下新川郡入善町入膳2458番地 氏 名 アイシン新和株式会社 代表取締役社長 安藤 英明 電話番号 (0765) 72-5815 (担当: 安全健康環境部 安全健康環境G 朝野)	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	アイシン新和株式会社
事業場の所在地	富山県 下新川郡 入善町 入膳 2458番地
計画期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	3100 輸送用機械器具製造業
②事業の規模	製造品売上高 14,885百万円 (令和5年度実績)
③従業員数	467人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	アイシン新和株式会社 → 鉋さい → 委託処理 ・研磨再生(リユーズ) ・セメント材料(リサイクル)等 → 廃油、廃プラ → 委託処理 汚泥 ・混錬・焼却・チップ化 (リサイクル)

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

## (管理体制図)

- ・環境保全統括者（取締役社長）
  - └─ 環境委員会  
 (事務局：安全健康環境部 安全健康環境グループ)
- ↓
- ・環境管理責任者（取締役）
  - ↓
- ・工場管理責任者（製造部長）
  - ↓
- ・各グループ環境保全推進者
  - ・製造1、2グループ環境保全推進者(各GM)
  - ・製造技術G、工務G：環境保全推進者(各GM)

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（ 令和5年度 ）実績】		
	産業廃棄物の種類	・ 鉋さい等	
	排 出 量	17,971 t	t
	(これまでに実施した取組) コークスを燃料とした鉄の溶解から電気溶解への移管推進による鉋碎類の削減。 鋳物砂の再生利用		
② 計画	【目標】（令和6年度）		
	産業廃棄物の種類	・ 鉋さい等	
	排 出 量	20,462 t	t
	(今後実施する予定の取組) 令和6年度重点取組みは、廃棄物の分別徹底。鉋さいと鉄源を分留して鉄源を再生利用。廃棄物発生量を削減する。 製造部と協業し鉋さい発生量を削減する。 目標排出量（令和5年実績：0.5%削減）で取り組む。 ※上記目標排出量は令和6年度生産計画予測を実力原単位化で算出		

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 工場内に分別専用ヤードを設け、各部署からの廃棄物を分別保管している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄物の性状値を確認した結果より、鉄原料分を含有する廃棄物を分留し鉄源は再生利用の取組み推進継続。

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	鉋さい等	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	52 t	t
	(これまでに実施した取組) 再生利用する為の道具立て。		
② 計画	【目標】（令和6年度）		
	産業廃棄物の種類	鉋さい等	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	85 t	t
	(今後実施する予定の取組) 排出状況確認により分別徹底再生利用の維持向上 廃棄物発生工程の整備による廃棄物削減		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 特になし。		
② 計画	【目標】（令和6年度）		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	t

		(今後実施する予定の取組) 特になし。
--	--	------------------------

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（ 令和5年度 ）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 特になし。		
② 計画	【目標】(令和6年度)		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 令和5年度 ）実績】		
	産業廃棄物の種類	・ 鉱さい	廃油・廃プラ・汚泥等
	全 処 理 委 託 量	17,431 t	488 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	1,007 t	343 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	16,424 t	145 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t

		<p>(これまでに実施した取組)</p> <p>可能な限り、セメント製造業への排出を行い、リサイクルを推進。</p> <p>鉦さいの性状分析結果により、有価物への転化を実施・推進取り組み継続中。</p> <p>廃油の、社内リユーズを推進・継続中。</p>
--	--	---

(第5面)

② 計画	【目標】(令和6年度)		
	産業廃棄物の種類	・全廃棄物総計	
	全処理委託量	20,377 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	650 t	t
	再生利用業者への処理委託量	19,727 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>引き続き、セメント製造業への排出を行い、リサイクルの推進を継続する。</p> <p>また、各鉦さいの性状値を分析し、有効成分抽出が可能なものはリユーズ及び有価物として廃棄物削減へ結びつける。</p> <p>廃棄物分留設備を導入し鉄源を再生利用し廃棄物削減を推進継続</p>		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。